

## 来場者が参加し、市民も参加することで、成功を取めた町づくりの新しいカタチ。

2010年10月1日から11月23日の日程で、信楽陶芸トリエンナーレ2010『信楽まちなか芸術祭』が開催された。期間中は市内の5つの会場で陶芸を中心とするさまざまな催し物が行われ、予想を越す23万7千人の人で賑わった。

焼きもの、散策、歴史、お茶…  
5会場で、30以上の催事を展開。

信楽といえば誰もがタスキの置物を思い出すほど、焼きものの町として有名だ。瀬戸や備前などと並び、日本六古窯とも呼ばれている。世界的にも名が知られ、バブル期には売り上げも右肩上がりであったが、昨今の不況もあり低迷を余儀なくされている。

そこで地場産業の復活のために企画されたのが、今回の信楽陶芸トリエンナーレ2010『信楽まちなか芸術祭』

である。

イベントは5つの会場で行われた。メインとなるのはまちなか会場の町内に点在する窯元やアート作品を見て回る「信楽まちなか陶芸展」である。普段は見ることのできない陶器の製造過程の見学や、職人との対話などが人気を集めた。単なる展示ではなく、来場者も参加し体験するという発想が功を奏したようだ。

まちなか会場では、この他「窯の未来展」「地球の声を聞くために〜風信楽」「移動体ギャラリー」など20近くの催事が行われたが、中には「黒壁国技館 狸相撲 信楽場所」のようなユニークなイベントもあり、子どもから大人まで楽しめることから、まちなか会場は期間中10万6千人以上を集める人気会場となった。

もうひとつのメイン会場となったのが「陶芸の森会場」である。焼きものを媒介として、創造・研修・展示などの機

能をもつこの公園では、オープニングセレモニーのほか、「信楽ライフ・セラミックス展」などが開催された。ライフ・セラミックスとは生活の中で、日常的に使われている身近な焼きものということで、同展では伝統技術だけではなく、新進デザイナーと地元の窯元とのコラボレーション作品など、デザイン性や使い勝手など新しい高付加価値の商品が数多く提案された。

このほか、「MIHO MUSEUM会場」「紫香楽宮会場」「朝宮会場」の三会場でもそれぞれの立地や歴史など個性を活かした催事が行われた。紫香楽宮とは、奈良時代に聖武天皇が短期間おいた都であり「しがらき」の原点でもある。また、信楽は茶どころとしても有名で、日本五大銘茶に数えられる「朝宮茶」の産地でもある。それぞれの催事の詳細は紹介できないが、芸術あり、歴史ロマンあり、お茶の試飲ありと内容も盛りだくさんものとなった。

### 来場者の満足とともに、町をひとつにまとめることに成功。

これだけさまざまな催事のある大がかりなものでありながら、実はイベント専門業者は入っていない。信楽の町が総出でボランティアとして働き、自らが運営した手づくりのイベントなのである。その経緯について、甲賀市産業経済部特区推進室係長で、信楽陶芸トリエンナーレ実行委員会事務局の藤田文義さんは次のように語る。

「予算の削減ということもありますが、町おこしのイベントのノウハウを町に残すには、自分たちが体験しながら実施していくことが必要だと考えたのです」

このため若干スケジュールが遅れ、告知の面では思うような広報活動ができなかったとはいうものの、来場者総数は予想の20万人を超え、23万7千人に達した。

また、このイベントを通じて、子どもから大人まで町中の人々がそろいの黄色いハッピーを着て日常的に「トリエンナーレ」という言葉を口にするほど地域にインパクトを与えた。

#### 担当者より



AJOSCの協賛を受けたことを誇りに思います。

信楽陶芸トリエンナーレ実行委員会事務局  
藤田文義さん

企画段階の折りに助成の選考にもれたこともありますが、実行の年に助成を受けることができて本当に助かりました。AJOSCの傘下の皆様は、社会貢献を实践されていると聞いております。そうした団体の協賛を受けたことを誇りに思っております。

「町の人やボランティアの働きによって、おもてなしのところで、来場者をお迎えし、ほんもの=信楽というコンセプト通りの運営ができたのではないかと思います。この経験やノウハウは今後の町づくりにも必ず活かされるでしょう」と藤田さん。

来場者へのアンケート調査によれば、このイベントについて、「満足」「やや満足」をあわせて82%にも達した。「町の人が親切でした」「また信楽に来たい」という声も多く寄せられている。

信楽陶芸トリエンナーレは、住民たちを参加させることで町をひとつにまとめた。産業振興の効果以上に、町づくりの好事例だと言えるかもしれない。次回開催は三年後である。



「信楽まちなか芸術祭」のポスター



オープニングセレモニー



滋賀県立陶芸の森「太陽の広場」で行われた陶器市



町内に点在するアートの一部「信楽狸来迎図」